

陽春の鮮麗にいろます

文樂座 浄瑠璃形

花形の特別興行
競演



四月二日
毎三時半開演
日午後三時開演
初日各等割引料金

日初日

戀女房染分手網道中及六段の井別段
伊達的美聲、友次郎の電腕燦と輝く

ひらかな盛衰記松右衛門逆巻の段
相生(清八)呂(叶)が一日替りて久々上場

鶴澤友次郎脚色、作曲

大楠公櫻井保映別段持佛堂訓承の段
武士道の浪者忠臣「大楠公」の新曲

掛合の櫻井傳に、文字(廣助)の訓戒血涙篇

攝州合邦辻合住家の段
繊細なる丁風に依る駒大夫(清一郎)初演の合邦

梅川戀飛脚大和往來新口村の段
忠兵衛

源(吉備)艶治なる文樂情趣の奥極

御入場料

一等席 金一円八十銭

二等席 金一円

三等席 金五十銭

初日各等割引

一等席 金二円五十銭

二等席 金七十銭

三等席 金三十五銭

先日は前夜開始

一等席指定券は五日前より發賣——団体御観覧は特に御相談申上げます。

電話南(75)四七一一番

四ツ橋

文樂座



義太夫

逆櫓の段

午後八時

淨るり 竹本相生太夫

三味線 鶴澤 道八

逆櫓の段は「ひらかな盛衰記」の

三段目の切である、粟津の敗戦か

ら世をくらました樋口次郎は、船

頭權四郎の家へ入聲となつて松右

衛門と名を變へ、逆櫓を言ひ立て

て榎原に近づき、義經の兵船の舟

子となつて故主義仲の仇を報せん

としたが、却つてその裏をかゝれ

て重忠に召捕られる、しかし前段

(大津清水屋の場)で取違へた榎松

の代りの駒若君は、重忠の情けで

助けられるといふ筋、かなり長い

曲なので今晚は途中から隨所を省

略して語る(寫眞はその、台)